



植物学の聖地で「牧野富太郎の植物図展」を開催中！

特別展「ボタニカル・イラストレーション」～植物図にみる研究者の視点～

と き 前期：6月9日（日）まで開催、後期：6月15日～7月15日（月・祝）
午前9時30分～午後4時30分 ※6月10日～6月14日は展示入替のためご覧になれません。

ところ 区立牧野記念庭園記念館（東大泉6-34-4庭園内） / 入場無料

世界的な植物学者で、練馬区に居を構え「日本の植物学の父」と呼ばれた牧野 富太郎博士の住居跡を整備した区立牧野記念庭園で、「ボタニカル・イラストレーション～植物図にみる研究者の視点～」と題された特別展が開催され、好評を博している。

ボタニカル・イラストレーションとは、植物を精緻に描き、なおかつ芸術性を兼ねそろえた植物図のこと。特別展では、植物学の研究者として多くの植物図を描いた牧野をはじめ、牧野の影響を受けた後進の研究者たちが描いた植物図約80点を展示している。来場者からは、「植物の繊細な描写がすばらしい。対象にせまろうとする牧野博士の執念を感じる。」などの感想が寄せられている。



特別展の様子

【徹底した観察と知識に基づく研究者たちの植物図を展示】

牧野 富太郎（1862-1957）は自らに課した心得書き「赭鞭一撻（しゃべんいったつ）」に「当に画図を引くを学ぶべし」と記し、精力的に植物図を描いた。植物研究における図の必要性や、研究者自身が植物を描くことの重要性を説いていた牧野の植物図は、線描によって植物の形や性質を細部までの確にとらえている。

本展では、牧野が自ら描いた植物図を中心に、牧野の影響を受けた山田壽雄（1882-1941）、井波一雄（1917-2005）、川崎哲也（1929-2002 後期のみ展示）、梅林正芳（1950-）など、後進の研究者達による植物図約80点を、会期中に一部展示替えを行いながら展示している。

若干20歳の牧野が高知県西南部を1か月間旅して描いた植物の写生図は一見の価値あり。

学芸員による展示解説

6月16日（日）、7月13日（土）の午後2時30分～3時（当日受付・参加費無料）



牧野博士が描いたカンツワブキの写生図

（明治末～大正期ごろ）

【牧野記念庭園の紹介】

牧野富太郎博士が大正15年から94歳で亡くなる昭和32年まで居住し、自らが採取してきた植物を植え、「我が植物園」として愛した住居跡を整備した庭園。

牧野の死後、この植物学ゆかりの聖地を広く一般に開放し、牧野の偉業を末永く後世に伝えようと、練馬区が昭和33年に開園した。園内には300種類以上の草木類が植栽されており、スエコザサ、センダイヤ（サクラ）、ヘラノキなど、大変珍しく学問的にも貴重な植物も多数見ることができる。

●交通案内：西武池袋線「大泉学園駅」南口下車 徒歩5分

●開園時間：午前9時～午後5時、火曜日（火曜日が祝休日にあたる場合は開園、その直後の祝休日でない日を休園）および年末年始休園、入園無料

【問い合わせ】環境まちづくり事業本部環境部みどり推進課 花とみどりの相談所 電話 03-3976-9402